

[2020年7月30日開催]

2020年度第1回革新的製品創出サロンを開催しました。

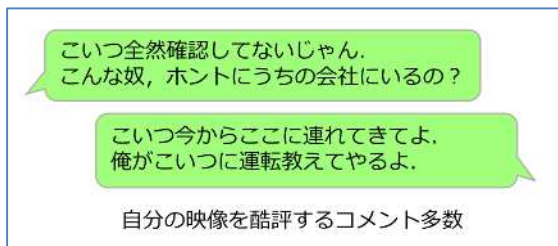
第1回サロンを講師・聴衆ともリアル参加で中部生産性本部（豊島ビル）にて7月30日に開催しました。新型コロナ新規感染者が今までの県新記録を示し、皆様のご心配が最大限に高まった状態でのリアル開催であったため参加者数は低迷しましたが、パワーあふれるご講演および熱意有る参加企業の皆様のおかげで開催できました。感謝申し上げます。

ご講演（1）名古屋大学 青木宏文教授

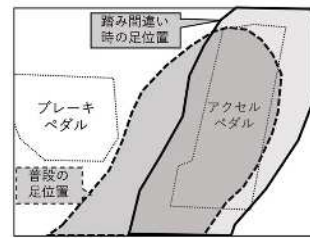
「高齢者の安全・安心のための運転支援とモビリティ社会」

人間・加齢特性研究のうち実際の高齢者集団約100名（50歳～83歳）を対象に採取された膨大な運転特性データの解析結果の事例を報告された。特に印象的であったのは以下の2点。

- 1) 自分の運転技能の衰えは自覚できない
- 2) ブレーキペダルがなぜ踏めない？



図：自分の運転映像を酷評する



図：踏み間違い時の足の位置

これら地道な研究が3500万人と言われる高齢者の安全運転を支える技術・システムの確立に繋がることにより、非日常的体験を後で分かち合いたいというモビリティ本来の使命を十分に果たし、日本の明るい将来の構築に資することを願ってやまないものである。

2. ご講演（2）株式会社リバネス 高橋修一郎社長、神藤 拓実氏

「地域企業の技術で世界の課題を解決する挑戦」～DEEP ISSUの探索が生む新事業の可能性～

同社は約70名の技術社員のうち半数が博士、残り半数が修士という技術集団である。高橋社長が大学在学時に同社を立ち上げた。出発点は市民と研究者のギャップを埋める役割を果たす“サイエンスブリッジコミュニケーター”の必要性を痛感したことからとのこと。技術シードをビジネスに育成するテックプランター事業を東南アジア各国で展開されており、先月ご講演頂いた浜野慶一社長からリバネス社につながる流れで、東南アジア等のDeep Issue解決手段として当サロン活動が貢献できる可能性をお伺いしたものである。手法は意外にオーソドックスな取り組みの積み重ねであるが、まさにパワフルな活動のご紹介講演である。結論として最後のスライドに「中部のものづくりの力で 東南アジア・世界の課題解決」と表示して頂いたが、当サロンからも協力を働きかけて行きたい。

関連して同社は日本国内でも“地域テックプランター事業”を2016年より実施し、今年度は国内12地域での開催を計画されているが、愛知県は空白地帯になっているとのことであり、こちらにも可能性を調査する。（小澤記）